

創刊号

八峰町関東ふるさと会会報

2010.10.発行

はたはた

教育長 千葉良一書



実りの季節(国道101より薬師山・母谷山)

「八峰町関東ふるさと会」の誕生に際して

八峰町関東ふるさと会会長 神馬 信一



「八峰町関東ふるさと会」誕生記念大会では二、三〇名以上のご参加を得て、盛大に行うことが出来ました。深く感謝の意を申しあげます。

平成の大合併が施行され、八森町と峰浜村とが平成十八年三月二十七日に「八峰町」としてスタートしました。両ふるさと会ともいずれば一緒になることを考えていたと思います。平成二十年五月に八峰町のご指導のもと、東京八森会は五月に関東峰浜ふるさと会は十一月それぞれの総会で承認されました。直ちに昨年一月に合併準備委員会を立ち上げ、関東峰浜ふるさと会米森会長が委員長に就任して、計八回の委員会を開催しました。

三回目の委員会には八峰町役場より企画財政課米森課長が、ご出席されいろいろなアドバイスを頂きました。

合併準備委員会では会の名称、会則の原案作り及び合併記念大会の当日のスケジュールや内容等がほぼ固まり、役員の出案作りでは合併準備委員会の委員長が初代の会長に思っていたところ、合併準備委員会のご推挙を頂き大役をお引き受けすることとなりました。

当会も会員の高齢化が進む中、登録会員の維持と新規会員を増やすことが急務です。

今回新しい試みとして八峰町で毎月一

回発行している「広報はつぼう」に総会のご案内を掲載させて頂き、一人でも多くのご参加を期待することにしました。

総会の会場は、同期会や出身地区毎に連絡を密にして、多くの同郷出身者で故郷の想い出や近況をお互いに語り合い、懐かしい故郷の温もりを体感できる貴重な場となります。

会としては、故郷を思う会員の情熱と絆が更に強く保てるように、故郷の皆さんをはじめ町との交流、近隣ふるさと会の仲間との情報交換に努めて参りますので、ご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

さて、故郷では六月に第十五回「海と川と空の塾」大会が開催され、二〇〇名以上で六〇〇本のブナを、峰浜地区の高峰山に植樹いたしました。参加者の中には地元だけではなく各方面から来られて自然に対する思いが強いのに感心しました。

植樹を終えて高峰山頂上から白神を背にして八森、能代方面を一望出来たことに感動し、頂上まで車で行けるように整備されているのに驚かされました。

今回は八峰町関東ふるさと会からも、大勢の方々が参加出来るような雰囲気作りも必要かと思う次第です。

「はたはた」創刊号発行に当たり題字の筆耕、寄稿、広告の掲載にご理解、ご協力

頂き感謝申し上げます。

総会は多くの皆さんが参加することによって盛り上がりです。

今回もたくさんの方々にご参加くださることを心からお願ひ致します。

最後に、会員の皆さんおよび八峰町民の皆さんのご健康、ご多幸、八峰町の発展を心からご祈念申し上げます。

会報創刊に寄せて

八峰町長 加藤 和夫

八峰町閑居ふるさと会の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

又、この度会員の情報誌として会報第一号が発行されますことを心からお祝い申し上げます。

私事で恐縮ですが、四月十八日の八峰町長選挙で引き続き町政を担当することになりましたので、倍旧のご支援をよろしく願ひ申し上げます。

さて、旧町村のふるさと会が両会役員のご協力と会員皆様の温かいご理解によって、八峰町の旗の下にスタートして早一年になろうとしております。昨年は、約二百三十名の参加でありましたが、新たな参加者同士の交流が開始されると同時に、一人ひとりのふるさとに寄せる熱い想いがひしひしと感じられ、大変心強く、離れていても心は固く繋がっていることを再確認できたものと思っております。

昨年九月、ふるさとでは新庁舎での歩みを開始し、十二月発足の本ふるさと会と一年一同じ年輪を刻んでいくことになりましたが、偶然とはいえない因縁を感じます。合併新町としてスタートした八峰町もあつという間に四年が経過しました。

人口も面積も財政規模も同じ隣同士で人的交流もあつた二町村でしたが、長い歴史や産業基盤、気質の違い等もあり、町民同士が一日も仲良くなり、一体化



されることに一番苦心してまいりました。

一朝一夕にすべてがリセットできるわけではありませんが、町内の様々な組織が一本化され、その組織を通じた交流が活発に行われるようになって、次第に融和が図られてきたことは間違いありません。

又、この四年間は、旧町村から引き継いだ町づくり計画を基に策定した新町総合振興計画を基本に防災行政無線の整備やハタハタ館改修等のハード事業、心と体の健康づくりや小学校の統合等のソフト事業を実行に移すことが課題でありました。

幸い、数次にわたる国の経済対策事業もあり、予定された事業は着実に推進できたものと思っております。

予期せぬ峰浜庁舎全焼という事故も、町民のご協力を得ながら新庁舎の完成によって克服することが出来ました。

心配された財政も職員の定数管理や効率化等図りながら、今のところ各指標とも健全域を維持しております。

そして、地場産業である農林漁業や観光産業も健在であります。

このように、この四年間で新町としての基礎作りが順調に進んだものと思えます。

しかし、これからは益々自治体間の競い合いが激しくなることは必死であります。

八峰町の恵まれた地域資源をフル活用し、全国に誇れる町をつつことが大きな

命題であります。

その為には、八峰町民とふるさと会員ががっちりスクラムを組みオール八峰で頑張るしかないと考えますのでご理解ご支援賜りますようお願い申し上げます。

結びに、ふるさと会のご発展と会員皆様の皆様のご多幸ご活躍をご祈念申し上げます。



ふるさとから

八峰町議会議長 須藤 正人



八峰町関東ふるさと会の総会にあたり、八峰町議会議長を代表してお慶びを申し上げます。

昭和三十九年に設立された東京八森会、同じく昭和六十年に結成された関東峰浜ふるさと会が、平成の合併で八峰町が誕生、昨年新生「八峰町関東ふるさと会」となり、愛するふるさとの発展に一層後押しをしていただいていることは、誠に心強い限りであります。

平成十八年三月の合併から四年余り当局も議会も、そしてさまざまな団体が町民の融和、一体感の醸成に努めてきたところではありますが、その成果はさまざまなどころに現れております。

白神山地や日本海、真瀬川や水沢川など海と山と川のある自然、そして豊かな農林水産物は全国に誇れる地域資源であります。

これらの資源を改めて見直し、観光産業に活用すべく官民一体となって取り組み、さらには県内大学との連携を図りながら新たな方向も探っており、その活動はマスコミなどにも取り上げられ、全国に発信されているところであります。

また、八峰町の人々の明るさ、人情の温かさが、笑福亭鶴瓶さんでおなじみの「家族に乾杯」で放送され、秋田県の児童生徒の学力が全国一と紹介される中で

八峰町の子どもたちの学力は特に優秀と評価されています。大人も子供も「財産」であり、人材を活かすことで八峰町の未来が開けるものと思います。

ふるさと会の皆様の、ご支援を糧とし、八峰町の発展に繋げてまいりたいと考えております。皆様のご隆盛、ご健勝を心からご祈念申し上げご挨拶いたします。



交流会に参加

八峰町関東ふるさと会副会長 伊東 千ヤ



昭和六十年九月二十二日、関東峰浜ふるさと会第一回記念総会が、東京青山の日本青年館で開催されました。(その後平成二十一年十一月より八峰町関東ふるさと会に変更)

この二十四年間忙しい想いをしたことが、楽しかったことなど、たくさん思い出があふれています。

目名瀨のダムのそばに桜の植林をしたこと。植林終了後ポンポコ山のレストラで、首都圏に移り住んで久しい私にとっては懐かしい山菜料理をいただいたこと、また大館能代空港開港記念ツアーで一番機に乗ったことなどなど。

中でも第三回ふるさと交流ツアーに参加し、水沢の浜小屋に一泊して地引き網をし、子供時代に慣れ親しんだ魚をたくさん獲ったことは懐かしい思い出です。

夕方、浜に集合して、昔話を語り合ったこと。ちようど八森の雄島の花火大会の日だったので、海をバックにした雄大な花火を楽しめたこと。本当に楽しい思い出です。

缶ビールを片手に語りながら、波の音をBGMに明日の天気が良いことを祈りながら眠りに着いたのでした。

そのうち右から左からイビキの合唱が始まり、にぎやかな浜小屋の一夜でした。翌朝、網元の皆さんや村のお子さんた

ちも集まって、ヨイショ、ヨイショのかけ声と共に地引き網が始まり、いわしやイカや小魚、小さなカニなどがたくさん獲れました。いわしやイカなどは七輪で焼いたり、またつみれ料理にしたりしておいしくいただきました。

総会の仕度など忙しい場合もありますが、ふるさとを同じくする人の集まりは本当に楽しいものです。

これからも皆さんと和やかに、会の進行に当たっていききたいと思っております。



八峰町関東ふるさと会に望むこと

前東京八森会会長 秋山 芳輝



新しいふるさと会として発足し、半年余りが経過しました。

想い起こすと、高校を卒業し東京に職を得て幾年か経てからのふるさと会への参加だったのを覚えています。東京駅から程近いサンケイホールが会場で、会発足の趣旨も理解できないまま皆に会いたい、俺もこんな感じで生きていく、多少の自己顕示欲と触れ合いを求めている、そんな参加でした。

まだ望郷の念が収まらず、懐かしさで胸が苦しいほど友を慕い求める心と、会場で皆に会える期待とで胸が躍っていたような気がします。今も胸が苦しいほど心の中で青春が息づいています。

一つの時代が終わるその先にあるべき姿を輪郭として描きとらなければなりません。故郷会の理念、求められている姿を考察する時、人生の旅路に向かう原点で受けた教訓、親兄弟、先生、自然、友人に思いを馳せる必要があります。未熟な自分を叱咤激励し育んで下さった先生、感謝せずにはいられません。今も見つめ続けていただいている、そんな想いです。

その生き方で「いいじゃないか」と誉めてもらいたい。いくつになっても発育途中の自分です。

風光明媚な自然、手付かずの自然。裏を

返すと暑さ寒さで手厳しい試練を強いられる自然。これにより耐えて生き延びる手法と勇気を授けてもらった。

学友の皆さんにはふるさと会開催のたびに誘い合つて多くの参加者を確保していただきました。今後今まで以上に大切にしなければならぬ心の友です。心から感謝の念をささげます。

時代は進み、思考にも変化がみられ、生活の有様が多様化し、個人の生き方それぞれが好きを選び取れる時代が始まっています。不確実性の時代、曖昧の時代とも言われ、そんな中で新たな格差が生まれ、人間関係の亀裂や希薄化が進んでいく様な気がしてなりません。相手のことをまず第一に考える思いやり、歴史や伝統に対する認識、大切なものを守り抜く公德心（モラル）などが希薄に成っている。この現状を変えられないことへの無力感が徐々に蔓延してきている。自分の生きることに自信が持てず、誰もがごどのような生き方が正しいのか見極めることに困難を覚える時代。自分の取り越し苦労ですめば良いのですが…。

そんな気風を払拭して信じあえる風土をつくろう。閉塞感を乗り越えて希望を持つて見つめ合える真心を持とう。私は故郷会がその役割を果たす絶好の場所だと思えます。

私たちがしなければならぬことは、互いを尊重し開かれた対話を積み重ね明るく語らいの多い、「場」を作り上げることだと思えます。この思考を今後の新生「八峰町関東ふるさと会」に期待し目標にしていなければ幸いです。

このたび発足した新生ふるさと会の役員メンバーの方々は、先見性と洞察力を十分に兼ね備え思考も柔軟性豊かで、ファイトあふれる人たちが構成されています。将来に向かつて魅力ある「八峰町関東ふるさと会」作りに邁進できる備え十分にあると確信しています。この親愛なる「ふるさと会」に無限のエネルギーを送ります。



ご存知ですか？

ふるさと納税制度

ふるさと納税制度とは出身地などの地方公共団体を応援する制度です。一般的にふるさと納税と呼ばれていますが、直接ふるさとに納税するのではなく、ふるさとなどの地方公共団体に寄付をした場合に、その一部が個人住民税・所得税から控除される(税金が安くなる)制度で、結果として、その控除された部分をふるさとに納税したのと同じ効果が生じるというものです。

地方公共団体へ5,000円を超える寄附をした場合に、

5,000円を超える額を、住民税や所得税から控除(差し引く)されます。

※税金の控除を受けるためには、最寄の税務署または住所地の市区町村への申告が必要です。また、控除には住民税に応じて上限があります。

交流の輪を広げましょう

元東京八森会会長 藤田 秀夫



八峰町関東ふるさと会が誕生し、第一回総会も和やかに行われましたことは誠に慶ばしい限りです。ふるさと会では、お互いに約一年ぶりの再会に親しい友との会話を中心となって終始することになるのは、各ふるさと会に共通する現象のようです。

八峰町は、旧岩館村、八森村、沢目村、埴川村の四つの村が合併して誕生しましたが、この地区は他の町村とは少し異なり、古くから人的交流が盛んだったところでもあります。私の出身地横間は、毎週末に観光市が開催される北部漁港があるところで、漁業主体の集落ですが、集落全体を見渡すと、約半数の家が峰浜地区（沢目、埴川）から嫁入りしてきたお母さんでしめられていました。反対に横間から峰浜地区へ嫁いで行った人も多いようです。

かくいう私も、関東峰浜ふるさと会との交流は古く、第二回総会以来通算五回以上は出席させていただきました。また、高校（能代工業）の同窓会や各校との交流会などで面識のある方がたくさんいて、私には新しい会との認識は余りありません。

これからは、八森、峰浜両地区の会員が、いかに融和して楽しく会話が弾むかが、ふるさと会発展の鍵となるかと考えて

おります。

幸いにして汽車通学した三年間で一緒だった方や、子供時代に魚を背負って行つては一緒に遊んだことのある大信田や埴の人もいるかと思えます。

当時の人を記憶を頼りに捜し出してみたいものです。

これからの総会では、積極的に各テーブルを廻り、子供時代の思い出話や現況を語り合いながら、交流の輪を広げて行きたいと考えております。

皆様にも多少の差こそあれ、そんな隠れ知人がたくさんいるはずですよ。

旧い知人を捜し出して楽しいふるさと会を作りましょう。

交流の輪が広がり、お互いに出身地の集落の自慢話などしながらひと時を過ごしたいものです。われらが八峰町関東ふるさと会の益々の発展を祈念しつつ、参加できることを何よりの喜びとして、このふるさと会が未永く続くことを願っております。



受賞のことなど

文化勲章受章者 日沼 頼夫



八峰町関東ふるさと会の皆様今日は！私は昨年十一月三日皇居正殿松の間に於いて天皇陛下から文化勲章を親授されました。

そして陛下に対して次のお礼を言上致しました。この言上は、予め手渡された巻紙にあったものを讀んだのです。

「この度は、文化勲章を拝受いたしました、私共の榮譽これに過ぐるものはございませぬ。私共はこの榮譽を体し、それぞれの分野において、一層精進を重ねる決意でございます。ここに一同を代表し謹んで御礼申し上げます。」内閣賞勲局の解説によると、文化勲章は昭和十二年に制定された。

単一級の勲章で科学文化の発達に関し、功績卓絶な者に授与される。

図様は、橘の白い五弁の花、中央には赤地に白い三つ巴の曲玉がデザインされ、鈕も橘の葉と実をあしらっている。常緑樹である橘は、平安京の頃から、京都御所紫宸殿の南庭に植えられ「右近の橘」と称されるなど古来から珍重されており、その悠久性、永遠性は文化の永久性に通じることから、文化勲章のデザインに採用されたといわれている。

さて、私は、秋田県の北部の日本海岸、八森に生をうけて、そこで幼少時代をすごしました。美しい故郷です。

その海、山、川、田園、そして、温かい人々、ずっと懐かしく思ってきました。二十一歳で東北帝国大学医学部に入学しました。医者になる志を立てたのです。

昭和二十五年に卒業して、小児科医になりました。

臨床とともにウイルス感染症の研究も並行して、やっております。

ところがアメリカに留学して、ウイルス学の研究をしたことが契機になって臨床は止めて、研究に専念するようになったのです。

それ以来、殆ど半世紀にわたつての主として人間の癌ウイルスの研究でした。

成人T細胞白血病の病因ウイルスの発見はその成果の一つです。

山あり、谷ありの研究でしたが、よき師、協同研究者に恵まれたことを幸運に思っております。

では、皆様、どうぞお元気で！



大盛況だった八峰町関東ふるさと会誕生記念大会

新たな歴史の第一歩この想いを次代に!!

地元紙にも華々しくとりあげられた昨年のふるさと会の様子をご紹介します。

'09 11 月 23 日 北羽新報掲載より

故郷の発展 後押し 誓う

八峰町出身者

「関東ふるさと会」誕生

旧町村の組織を解散・設立

会長に 神馬さん 旧交温め、交流広げる

関東在住の八峰町出身者でつくる「八峰町関東ふるさと会」の誕生記念大会は22日、東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷で開かれた。旧八森町出身者による東京八森会、旧峰浜村出身者の関東峰浜ふるさと会を同日解散して立ち上げた新ふるさと会。出席した会員約300人は、親ほぐを深め合うとともに、愛するふるさとこの発展を一層後押ししていくことを誓い合った。



八峰町関東ふるさと会の誕生を祝い、にぎやかに繰り広げられた記念大会(東京都のアルカディア市ヶ谷で)

東京八森会は昭和39年、東京で勉学する学生たちの世話や就職した人のよびかけでつくることを目的に設立。また関東峰浜ふるさと会は同60年、峰浜村30周年記念事業の一環で結成した。18年3月の八峰町誕生後もそれぞれ活動していたが、昨年5月に町側から一本化の提案を受け、これを了承。今年1月から両会役員らで合併準備委員会を組織し、新たな会の運営方針などを話し合ってきた。

大会には町出身者とその家族、来賓として加藤町長ら町三役、正副議長・議員、近隣市町村ふるさと会の役員など約300人が参加。はじめに八森会の秋山芳輝会長(中浜出身)が「八森会がなくなり寂しい気持ちもあるが、一つの町の出身者が一堂に会することができ、こんなうれしいことはない」と峰浜ふるさと会の米森三次郎会長(石川出身)は「八森会の皆さん、われわれのことをよろしくお願ひします」とあいさつ。

また加藤町長は町の近況を報告しながら、「いい夫婦の日」に両会が一つに結ばれ、心からお祝い申し上げる。合併4年目の町をこれからも激励してほしい」と述べた。総会では八森会、峰浜ふるさと会の発展的解散をそれぞれ一致で承認するとともに、会則、今年度事業計画・予算を決めた。会長には、峰浜ふるさと会幹事長の神馬信一さん(64)＝埼玉県上尾市、小手秋出身＝を選出した。

続く懇親会では、佐々木正憲副町長の発声で乾杯。出席者はふるさとのお酒が詰め込まれた盛りだくさんな鍋を囲みながら、同郷同士の久々の再会を喜び、新たな交流の輪を広げた。踊りやカラオケなどの余興もにぎやかに繰り広げられ、八峰町民

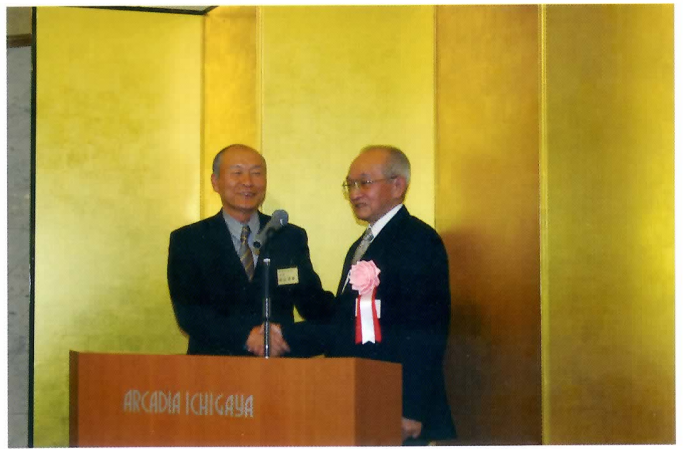


八森、峰浜両地区の出身者が一堂に会し、故郷に思いを寄せながら杯を交わした

祝八峰町関東ふるさと会誕生記



加藤八峰町長祝辞



両会長ガッチリ握手



久し振り同級生



今井親子の民謡熱唱



全員“ふるさと”合唱



ハイポーズ



加賀谷顧問・万歳三唱



おまたせ！だまこ鍋

「もう一度会えたら」

秦野市在住 岩井 厚子 (旧姓鈴木)



私のまちを流れる小さな川のほとりには、桜が少しばかり植えられている。まだ枝の整わない桜が、それでも花の季節には人々の心を和ませてくれている。

ある日、川沿いの道を通ると折りたたみイスに腰掛け、桜を愛でるおばあちゃんに出会った。

「あら、お花見ですか。」声を掛けると、「酒っこ持って来るの忘れた。」との返事。酒っこ。この、ふるさとの温かみのあることばに愛着を持つ私は、次のことばを掛けずにはいられなかった。

「おばあちゃん、秋田の人でしょ。」
「んだス。」

郵便局に用事を抱えていたため、その時は二言三言で別れた。ところが驚いたことに、三十分程してまたその道を通ると、おばあちゃんの姿があった。私が戻るのを待っていたと恥ずかしそうに言いながら、古新聞で作った小さな袋を差し出してくれた。

「これ、持っていけ。いい花っこ咲くから。」

夏の終わり、おばあちゃんのことを忘れかけたころに、青い大きな朝顔が咲いた。

『あのおばあちゃん、どうしているかしら。』あれからあの道を通ることもなく過ぎてしまったことを悔やんだ。どう



してもっとあの道を通ってあげなかったのか。おばあちゃんは私を待っていてくれたかもしれないのに。やさしさの足りなかった自分を責める。

「いい花っこ、咲きましたよ。」
そう伝えなければ。

あれから三年。おばあちゃんに会うことはもう無い。けれど、おばあちゃんの良い朝顔は毎年花を咲かせてくれる。おばあちゃんの笑顔に似ている朝顔を見る毎に思う。もう一度会いたい。その時は、たくさん話をきいてあげる。いやという程やさしくしてあげる。そう思うと、今でも涙がこぼれる。

へら鮎釣りに魅せられて

東京目黒区在住 芹田 貞夫

インタビュアー 八峰町関東ふるさと会



公園です。無料でそこそこ釣れるのがいいです。ほかには千葉、神奈川、埼玉

など関東全域です。

Q：これからやりたいことは？

A：大会での優勝です。まだ経験が無いので・・・もうひとつは大きさへの挑戦です。今までの最高は四十センチほどですが、五十センチ級を釣り上げてみたいです。

Q：始めたきっかけは？
A：仕事の先輩から誘われてです。もともと海や山へはよく出かけていたので抵抗はありませんでした。子供のころはよく鮎を水沢川に引つ掛けに行っていましたね。何度か行っているうちにどんどんのめりこんでしまいました。かれこれ二十年くらいになります。

Q：魅力・面白さは？

A：奥の深さというか、へら鮎との駆け引きですね。同じ場所でも季節、天候、温度などで釣れ方がぜんぜん違うし、隣同士でも隣はよくつれているのにこっちはまったくつれないことがよくあります。状況に応じて竿や餌、仕掛けを変えていく、試行錯誤しながら仕掛けを投げ入れて浮きをジッと見つめアタリを待つ。浮きの沈みに合わせて、竿を上げる。釣れた時の手に伝わる重み、感触が最高ですね。へら鮎との駆け引きに勝ったという気持ちになります。

Q：出かける頻度は？どの辺まで行く？

A：多いときはほとんど毎週行っています。日本へら鮎釣り研究会に所属しているので、その月例大会があります。ほかにも、地区大会があったり、個人的に行ったりします。よく行くのは目黒清水



思い出いろいろ

ひたちなか市在住 鈴木 久春



昔、人生のたそがれを歌った『今は悲しき六〇才』というとても響きの悪い曲目があったが、今、その年も疾うに過ぎ、七十代の大台に乗り、昔を懐かしむ。特に少年時代を回想する頻度が高くなった。今日この頃です。

小中学校の頃、音痴のために独唱のテストが苦手であった。必然的に音楽全体がイヤになり、その時間が近づくと苦痛だった。当然、通信簿の成績は1か2だった。それと比較するとカラオケはいい、無責任でいいからである。中には唄の最中に脇見をしたり、会話を夢中だったり、無関心な人も居るが、すくなくとも面と向かって批評、採点等はしない。一方、まれには声援や大拍手をもらうこともある。そんな時は（ん、俺もまんざらでもないか）といい気分になる。錯覚でもいい。あまり深く考えずに素直に喜ぶ。これがカラオケ人気ゆえんかと思う。

昭和二十四年、岩子小学校五年の時、全校のど自慢大会が行われた。司会は六年生のHさん、審査員兼鐘叩き役はなぜか音痴の俺。六年生にTさんという男勝りのいい女の子がいた、彼女は唄の途中で歌詞を忘れ中断した。正しくはここで鐘一つで終わりのところ、私は再開させ、しかも鐘三つ鳴らした。当然非難の嵐。しかし、あの時は（こんなに上手だから

多少のミスは許される」という判断だった。このエピソードと二人以外の事は全く覚えていない。そして全ての記憶がいつか頭の片隅に追いやられた。

五十年後、所用で帰省した時、一級上のA子さんに逢い、昔話中に突然「久春は私に鐘二つしかくれなかつたよネ」と例のど自慢の事を言ってくるのです。先般、岩子小の閉校式でHさんに逢いこの事を話したが、彼は何もかも記憶に無いとのこと。なるほど。同じ現場に居ても人により、記憶も思い出もいろいろだなあと痛感した。

たわいない一部の狭い世界の出来事に貴重な紙面を割いて頂き誠に勝手とは思ったんですが、あの体育館に居たみなさんにはそれぞれの思い出。或いは忘れか。そんなことを考えたなら無性に投稿したくなりました。

八峰町関東ふるさと会が永続される様、切望致します。失礼しました。



ふるさとの味と香り、おいしさそのまま贈ります。



秋田名物
きりたんぽセット

10月上旬から
2月下旬まで
発送いたします

申し込みご予約は
TEL.0185-76-2529 FAX.0185-76-3156

秋田県山本郡八峰町峰浜田中字大土面 17 レストラン 峰

昔懐かし、ふるさとの味

おやき



セキトの「おやき」は9月上旬から翌年3月下旬までの「季節商品」です。八峰町へお戻りの際は、是非「焼き立て」をお召し上がりください。



www.sekito.net

地方発送のご注文はこちらへ

株式会社 セキト
●上町本店 能代市上町 12-2
TEL.0185-54-3131
FAX.0185-54-2433

NPO法人
白神ネイチャー協会

白神山地 植えようブナを、育てようあなたの心

会員及び植樹ボランティア参加者募集

世界遺産地域隣接地においてブナの森作りを行い、白神の森から良好な水の供給を図り魚類の産卵ふ化する藻場「海の森」の再生につなげる活動をしております。

一緒に活動、支援下さる会員及び、ブナ植樹祭ボランティア参加者を募集しております。

白神ネイチャー協会の活動内容、入会申込等につきましては、下記までご連絡ください。

白神ネイチャー協会事務局

■TEL:0185-70-4211 ■FAX:0185-70-4214

■URL <http://www.shirakami.or.jp/~asna/index.html>



(マリネ、ハタかま、鯛ずし) 発送承ります!!

秋田・味めぐり一番所はちもり

⊕ (株)鈴木水産

☎ 0120-022170 FAX 0185-77-3601
 URL <http://www.suzuki-suisan.co.jp/>
 E-mail suzuki@suzuki-suisan.co.jp

白神山地の天然湧水仕込だけで
 酒造りを行う全国で唯一の蔵元



白
 瀑

八森字八森 269

TEL/0185-77-2311 FAX/0185-77-2312

これからも地元産の食材にこだわり、喜ばれるものを作っていきます!!



米森農園

〒018-2504
 八峰町峰浜石川字石川 498
 TEL&FAX: 0185-76-3434
 MAIL: yonemori_011@ybb.ne.jp



そばの花

春夏秋冬いつでも旬。

もぎたてのしいたけは、すっごく美味しいんです♪



せりたきのご農場 せりた まさつぐ 芹田 正嗣

秋田県山本郡八峰町峰浜目名瀧字岩子 38
 TEL&FAX: 0185-76-3062 携帯電話: 090-3122-2298
 HP: <http://www.serita-kinoko.com> E-mail: info@serita-kinoko.com



大自然の中で育った美味しいしいたけを、
 ご贈答用にお詰めします。



八森いさりび温泉
 ハタハタの里観光事業株式会社

“ハタハタ館”

秋田県山本郡八峰町八森字御所の台 51 番地
 TEL: 0185-77-2770(代)

白神の海と大地の夢を育む

白神八峰商工会

会長 大森 三四郎

TEL:0185-77-3161 FAX:3008
秋田県山本郡八峰町八森字中浜41-3



“ あわびの里づくりまつり ”

平成23年8月6日(土)開催

☆参加して「My あわび」のオーナーになってみませんか！

「自然まるごといきいき野菜・石川そば」

産地形成促進施設 「おらほの館」

旬の野菜がどっさり！ 地方発送もいたします！



..... ご来店おまちしております

〒018-2509

秋田県山本郡八峰町峰浜沼田字沼田ホンコ谷地 147-6 **道の駅となり**

TEL・FAX 0185-76-4649

mail : orahonoyakata@shirakami.or.jp

皆川薬局



どちらの処方せんでもお受けします。

薬剤師 皆川 鉄治・山脇 一輝・山脇 真理

八峰町峰浜沢目駅前 TEL.76-2052・FAX.76-2199

営業時間 7:00~20:00 / 休業日 日曜日・祝祭日

心通い、笑顔のある、家庭的な環境！
いつでもご見学、ご相談可能

グループホーム

いこい

八峰町峰浜田中字立花 13-1

TEL 70-3151

◆◆◆ 和洋菓子舗 ◆◆◆



新商品

笹餅
7種のハーブシフォン
始めました

チョコマン、山びこまんじゅう、カステラドーナツ

美味しいお菓子の店 **高峰堂**

八峰町峰浜塙字豊後長根145 TEL0120-89-2041

営業時間 7:00~20:00 年中無休

地域と共に

エルポート・シロキ

代表取締役 白木 博

八峰町中浜 TEL:0185-77-2323

FAX:0185-77-2324

E-mail : el-white@shirakami.or.jp

秋田料理 居酒屋 秋田おばこ

埼玉県川口市戸塚2-23-28
TEL. 048-294-1856

スナックこまち

埼玉県川口市東川口1-15-18
TEL. 048-298-2877

高沢 すな (八峰町出身)

子どもに夢を！ 誇れる郷土を！
地域に活力を！

第25回雄島花火大会

8月15日打ち上げ

雄島花火実行委員会

委員長 諸沢 英紀

白神山地から湧き出る天然水と、地元農家の青大豆のみを使用



究極の美味 グリーン豆腐

従来の豆腐より栄養価が高く
ほんのり緑色で甘味があり、こくが深く、
美味です。

◆◆◆◆ 松岡食品 おかげさまで創業62年を迎えました ◆◆◆◆

〒018-2664 山本郡八峰町八森字古屋敷 43-3

松岡 清悦・松岡 清也

TEL 0185-77-2024 FAX 0185-77-3646

E-mail : info@matsuoka-foods.com



さがけ

魁 経営労務総合研究所

・JMBC・コンサルタント事業部

経営労務コンサルタント (全能連登録)

代表 松尾 長二郎

事務所 〒157-0077

(自宅) 東京都世田谷区鎌田 3-33-2-105

TEL/FAX : 03-3417-1860

あふれる緑、大地と共に輝く未来

秋田やまもと農業協同組合

本 店 〒018-2104 秋田県山本郡三種町鹿渡字町後 270
TEL:0185-87-4600(代) FAX:0185-87-4200
代表理事組合長 米森 萬壽美



峰浜支店 〒018-2503 秋田県山本郡八峰町峰浜字豊後長根 65-1 TEL:0185-76-3151(代) FAX:0185-76-3959
八森支店 〒018-2674 秋田県山本郡八峰町八森字上家後 74-1 TEL:0185-77-3311(代) FAX:0185-77-2400

一七森産物

日本海の旬の魚
家庭へ届けます

0185-77-2555

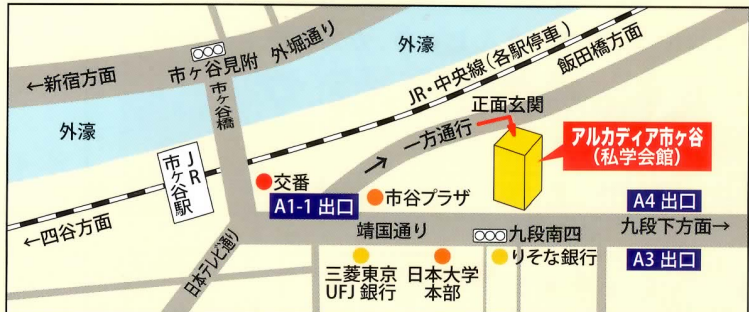


秋田県山本郡八峰町八森字横間 156 番地先
秋田県漁業協同組合
北部総括支所

第2回八峰町関東ふるさと会総会・懇親会 平成22年11月21日(日) 開催

受付：11時00分～
総会：12時00分～12時30分
懇親会：12時30分～15時30分
会場：アルカディア市ヶ谷
〒102-0073
東京都千代田区九段北4-2-25
03-3261-9921(代表)

懇親会費：6,000円
(学生は3,000円、小学生以下は無料)



- 地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 A1-1 出口
- 地下鉄新宿線 市ヶ谷駅 A1-1 または A4 出口
- JR 中央線(各駅停車) 市ヶ谷駅

上記各出口から徒歩約2分

友人・知人をお誘いの上お気軽にお越しください

駐車場は使用出来ませんので、JR / 地下鉄をご利用ください

八峰町関東ふるさと会・役員一覧

会長：神馬 信一
副会長：麻木 固磨、伊東 チヤ、内山 由子、北郷 洋子、信太 吉右エ門、
田中 章、戸田 眞里、福田 稔、干場 革治
幹事長：成田 勘一
副幹事長：笠原 均、船越 鉄実
幹事：大久保 英子、大久保 澄子、黒浜 茂子、坂田 二郎、佐々木 正人、
佐々木 テル子、白木 仁、芹田 忍、丹波 テツ子、矢野 忠司、
山内 哲夫
監査：菊地 弘美、鈴木 輝志郎
顧問：加賀谷 光丸、富岳 智猛、藤田 秀夫、秋山 芳輝

〒184-0001 東京都小金井市関野町一三三三五
Tel/Fax 〇四二一三三三二〇二七八
成田 勘一方

八峰町関東ふるさと会事務局

◇「八峰町関東ふるさと会」会報、創刊号に多くの方に投稿、写真提供、広告掲載頂きました。感謝申し上げます。

◇「はたはた」の題字を心良くお引き受け頂きました。教育長の千葉良一様有難うございました。

◇無事発行できました事、編集委員一同ホットしています。

◇ふるさと会、会報についてご意見お寄せ下さい。

編集後記

発行：八峰町関東ふるさと会
発行責任者：神馬 信一 ■編集責任者：丹波 テツ子
編集委員：北郷 洋子、芹田 忍、田中 章、成田 勘一